

イノシシ用わな開発

設置しやすく価格手頃

藤岡の沢田製作所



県内外から注文があるイノゲットと沢田社長

金属焼き付け塗装などを手掛ける沢田製作所(藤岡市立石、沢田正文社長)は、農作物の鳥獣被害対策として、イノシシ捕獲用のわな「イノゲット」を開発した。わなを踏んだ足をワイヤで縛り付ける仕組みで、設置のしやすさと、5千円程度という手頃な価格が特徴。インターネットを通じ、県内外から注文が寄せられている。

設置方法は、獣道にの原理でロックが外れ、埋めてワイヤを木に結、てバネの力でワイヤを引、土や落ち葉で隠し、イノシシの足を縛る。足の高い位置を縛る

価格を1万円前後から4800円(税別)まで引き下げ、軽量化も実現した。

細から追い払う方法では対処しきれないほどの被害を受けているとの農家の声を聞き、15年ほど前から捕獲用

わなの開発を続けてき

た沢田社長(69)。失敗と改良を重ね、ようやくニーズの高い商品を作ることに成功した。「作る側と使う人の思いが合致して初めて世に出るのが発明品。リピーターがいることが何よりうれしい」と話す。

同社ホームページ(Htt://www.kada-s.com)で、使い方の動画を見られる。問い合わせは同社(0974・42・4317)へ。

農作物の被害 全県で1億超

平野部にも広がる

イノシシによる農作物被害が農家を悩ませている。被害金額は県と、2013年度の鳥獣による農作物被害は全体で毎年1億円を超えており、平野部にも

マイクロEV用モーター

開発を加速

のうちイノシシは1億634万円で、全体の27%を占めている。カモシカ(2億3885万円、53%)に次いで被害が大きい。

イノシシによる被害は09年度が1億700万円だったが、10年度は1億3946万円、11年度は1億7068万円と増加。12年度(1億6010万円)、13年度は2年連続で減少したものの、1億円以上の被害が続いている。農家の生産意欲減退は深刻だ。

市町村などは国や県の補助を受けて防護柵を設置したり、おりやわなで捕獲するなど、対策に力を入れている。同課は「早期に対応した地域は被害が減少している」とする一方、生息地が広がり、平野部の新たな地域で被害がでている」と警戒している。

した先進国向けの需要があると見込み、それぞれ世界シェア拡大を目指すとした。

新制度名は「県いきいき」

県の女性登用企業認定

県が新年度に導入する、女性登用に積極的な企業を認定して入札などで優遇する新たな制度の名称が「県いきいきGカンパニー認証制度」になる見込みであることが4日、分かった。

同日の県議会議産経土木常任委員会、石川

人工衛星の開発裏話

前橋で講演会



大阪府東大阪市の鉄

「まいど1号」の開発プロジェクトを立ち上げた青木豊彦さんの講

利一労働政らかにした(ツド)優良化する「G」という。新制度は、庭の両立支心企業を対行の三つの化して設計するほか、延ある既存制業には2年間内に、新要件を整え